

**年金生活者＝牛沼在住のMさんの場合(市・都) 民税**

3,500円 → 8,500円 → 12,700円 → **49,900円**

03年度

04年度

05年度 昨年

06年度 今年

**「年金暮らし」を襲った 市民税 納税通知書**



**あきる野市でも**

**市民より苦情相次ぐ！**

なにかの間違いでは？

とんでもないことなってるの？

年寄り早く死ねと  
言うのか？

六月に各家庭に市民税の納税通知書が届きました。多くの市民はそれを見てびっくり、特に年金暮らしの家庭は、昨年の二倍、三倍、なかには数倍という額に「なにかの間違いでは」と怒りの声を市役所や、議員のところにもぶつけています。

**牛沼のMさんは 昨年の四倍に**

**小泉自公政治の 市民への「お中元」？**

先日Mさんの奥さんが納税通知書を見て「あなた大変、市・都民税が去年の四倍になつている。なにかの間違いでは」と驚いて言いました。日本共産党の市議会議員にも問い合わせがたくさんありました。

六月に通知書を発行以来この種の問い合わせが連日市役所であり、市の税務課は対応におおわらわです。議員にも「早く死ねと言うのか」など怒りを寄せる市民もあり、市民の怒りの底深さが伝わってきます。

先日の年金生活者にシヨックを与えた市民税の大幅増は、小泉政治が、一昨年度に公的年金の控除の縮小と老年者控除の廃止を決定したからです。また昨年度には高齢者の住民税の非課税限度額を廃止し、定率減税の半減を盛り込んだからです。これらによる住民税増税が、今年六月徴収分から一気に高齢者に襲いかかつてきたのです。

また昨年度には高齢者の住民税の非課税限度額を廃止し、定率減税の半減を盛り込んだからです。これらによる住民税増税が、今年六月徴収分から一気に高齢者に襲いかかつてきたのです。

**アメリカべったり、大企業、大銀行、大金持ちには 減税の大サービス**

小泉内閣は、アメリカの軍事基地の再編に国民の税金三兆円を簡単に提供しようとして、国民から批判の声が上がっています。

強者を助け弱者を搾く小泉政治は、庶民を苛めながらトヨタ自動車のような大儲けの大企業や大銀行にさら



誰もが認める人見知り、甘えん坊だったむすめは、ちびがおなかにいるうちに早々と赤ちゃん返り、でも、ちび誕生後は周囲の予想に反してステキなお姉ちゃんに大変身。

しかし、ついにその時がやってきました。「だっこ」「やって」連発、ちびにいじわる、お兄ちゃんとけんか。今までのガマンが一気に噴出しはじめました。弟妹のいる子どもは、親に余裕が出てくるのを待って甘えるそうなので、私も「3児の母」が板についてきたのだと思っております。ありがたく受けとめたいところですが、なにしろ容量少なめのアレな母なので…、加えて、むすこも甘えのきざし。

たばた家に波乱の予感。  
 たばた あずみ  
 連絡先は☎550-6674

楽しむたい。(湘)

**野良望**

20㎡の市民農園を借りて少しばかりの作物をつくっている▼今年にはタマネギやジャガイモなどを植えた。タマネギはそれなりのできばえ。ジャガイモは元気に育っていたが途中から病気に冒された。葉は縮れてしまい全滅だと思つて掘り返した。ところが小さいのが多かったが地中ではたくさん実つていた。親指大のものもゆでてバターをつけながら食べた。そのうまいこと▼住宅に囲まれながらも頑張つているなど思つていた畑がつぶされていく。悲しい思いだ。あきる野こそ「農」のあるまちとして発展してほしい。▼日本の食料自給率は極端に低く、その向上を国民は望んでいる。安全・安心な地場農産物を求める声も切実だ。一握りの大規模農家の育成を名目に多くの農家を切り捨てる農政でなく、農業を続けたい人、やりたい人はみんな大事にする農政こそ必要だ▼自分も「農」のある生活を

公立阿伎留病院が新装なって 8月1日から「公立阿伎留医療センター」としてオープン

# 医師の増員で、地域医療の中核病院を!



市民の願いにこたえる

病院づくり

管理者(あきる野市長)

院長の

責任は重大

## 阿伎留病院の歩み

大正十四年伝染病の予防及び治療のための病院として設立され、昭和二十年代には結核が蔓延したため、その治療が中心となりました。昭和三十年代以降は、高度

経済成長の進展と共に結核の予防法や治療法の進歩普及とともに、罹患率が低下し、伝染病床及び結核病床を一般病床に転用し、一般疾病の治療に重点を置いた医療を今日まで展開してきました。

## 新装なって

ベッド数二六六床、医師三二名体制でスタート

新病院の総ベッド数は三〇床でその特徴の一つとして、癌の終末期医療として



緩和ケア病棟を一六床つくりました。新病院では常勤医師の定数を五一名予定していますがオープン時のベッド数は医師不足などから二六六床、医師三二名体制でスタートすることとなります。

## 医師の確保が今後大きな課題に

新病院は発足当初から医師不足問題を抱えています。不足している医師は約半数が内科医で、他に耳鼻咽喉科、産婦人科をはじめ各科で不足しています。

最近では、産婦人科の医師が一名減となるなど、さらに医師不足が深刻な状況となっています。日本共産党の市議団は、医師の確保について以前から病院議会で再三要請してきました。

## 投書 新装オープンに際して思う 草花・Kさん

怪我や病気で急変のとき、何より頼りになるのが病院であり、市民から信頼される「センター」だと思えます。地域病院として夜間・休日を開かず如何なる疾病でも受け入れる一次救急的体制でほしいが二次救急である阿伎留病院は夜間・休日の専門外医師の当直による診療拒否・入院拒否など、市民から不満の声を聞くことがある。また、医師不足は研修医制度が要因と云われますが、都市に遍って集中する歪んだ構造を医療行政が正せないところにも大きな要因があります。これに臆することなく医師の確保に全力を注いでほしい。



絵手紙/Sさん・雨間在住

## 東地区後援会總會のお知らせ



7月30日(日)PM2時より「たつみ」(森さん宅)で第6回総会を行います。2部では皆さんと一緒に楽しめる企画として、三線(沖縄の三味線)演奏をコーヒーを飲みながら聴きたいと思えます。ご参加をお待ちしています。★バザー出品にご協力下さい。出品下さる方は後援会役員へ連絡して下さい。(事務局)

## 日本共産党後援会便り

## 歴史探訪

## 第22回 再掘一草花・中高瀬遺跡(2)

現代の造形作家の作品と見まがう程の前衛的・幾何学的な文様に魅了されるわけですが、もう一つ魅了される遺物に土偶があります。(続く)

草花 木崎秀治

塩野半十郎氏が発掘した草花前遺跡から既に七十年、今回の二本の道路事業から出土された遺物は縄文時代の土器・石器、古墳時代の土器・石製品などを含めコンテナ八十数個と報告されています。一般にいう土器は縄文・弥生・古墳それぞれ時代に造られていますから、変遷で形態は違います。私達を最も魅了するのが縄文土器であり、縄文様を横様につけて焼かれた素焼の土器である理由から、その呼び名が昭和初期に定まりました。

しかし縄文時代といっても紀元前一万五千年前の先縄文期(章創期)から紀元前三百年の弥生期に入るまでの長い期間を見れば、縄目文様のないものや器形・形態が違つた様々であつて、塩野半十郎氏は「胴部に渦巻文様のような優雅に重複した貼付文のある勝坂式土器(中期・紀元前約二千年前)に最も魅了される」と云つています。



勝坂式深鉢(縄文期)

色づきし菘菜を瓊ユキ小尾長島(やすこ)富士山に抱かれし村走り梅雨(勝代)外灯のどとかぬ間に雲舞ふ(忠信)手を広げ五月の赤子産まれたり(かほる)水底の砂吹き上げて衆傷く(香信)

## 俳句

異國語の飛び交ふ山やつじ味き(電子)カワプルの顔寄せ寝入る夏列車(照代)山あいのホスピス病棟蛙鳴く(静子)